

佐賀県出身で、日中アニメーションの礎を築いた持永只仁氏の知られざる生い立ち、功績を紹介

持永只仁

をめぐる

日中アニメ・シンポジウム



2月5日（金）・6日（土）・7日（日）10時～

会場：エスプラッツ（佐賀市）

お問い合わせ先●佐賀大学ふるさと映像塾（角和博）TEL 0952-28-8374

段孝萱 毛東継 朱鵬瑄 鈴木伸一 真賀里文子 持永伯子 他



<http://sympo.web.fc2.com/>

主催：文化庁、佐賀県地域文化芸術振興プラン実行委員会、佐賀大学ふるさと映像塾

文化庁『地域文化芸術振興プラン推進事業』

Puppet Animation

人形アニメーションとは、人形やぬいぐるみをコマ撮りし、作られるアニメーションのことである。人形などの材料に粘土を使い、さらに変形の自由度を高めたものは特にクレイ・アニメーションと呼ばれる。

これらアニメーションの基礎を築いたのが佐賀で幼少期を過ごした持永只仁である。彼は、中国と日本を行き来し、日中アニメーターたちを数多く育成した。いわば日中の架け橋となった人物である。

※期間中は、日本と中国のトップ アニメーション クリエーターの講演、シンポジウム、歴史的なアニメーションの上映、人形の展示、ワークショップなどでアニメーションの世界を堪能することができます。

持永只仁（人形アニメーション作家）1919年～1999年



「ピノキオ」の演出をする持永只仁。

1919年 東京生まれ。1928～1932年を父母の故郷佐賀市で過ごす。日本初の長編アニメーション映画「桃太郎の海鷲（うみわし）」（1943年）などに携わった後、「満州映画協会」に入社。終戦後も中国に残り、手描きアニメーションの基礎を教える傍ら人形アニメーションに取り組む。1953年に帰国して日本初の人形アニメーション「瓜子姫とあまのじやく」（1956年）や「ちびくろさんぼのとらたいじ」（1956年）などを監督。川本喜八郎や岡本忠成ら多くの人形アニメーション作家を育てる一方、度々訪中し日中交流にも尽力、穏やかな人柄でスタッフ達に慕われ続けた。1999年4月1日逝去。享年80歳。佐賀の菩提寺、本行寺に納骨されている。



左側が中国の持永只仁。子どもは伯子さん。

毛東継（監督）

（モウ ジドン）1962年生まれ。1989年、上海演劇学院を卒業後、上海美術映画製作所で働き、2000年から現在まで天津映画製作所でアニメ部の部長に就く。今まで数本のアニメーション作品を監督。2Dと3Dそれぞれで、中国初の粘土操り人形を製作した。

朱鵬璋（プロデューサー）

（シュ ホウセン）1982年生まれ。2008年日本大学芸術学部卒業。同年天津映画製作所に入社。現在プロデューサーとして活躍中。

段孝萱（アニメーションカメラマン）

（ダン コウセン）黒龍江省出身。東北電影制作所に入り持永只仁の指導する動画班で技術を学ぶ。1960年水墨アニメーションの研究を認められ文化部の技術発明賞を受賞。代表作は「大あばれ孫悟空」「ナーザー海で大あばれ」。国内外の賞を多数受賞。

鈴木伸一（アニメーション作家）

ラーメン大好き小池さんのモデルといわれている。藤子不二雄、石ノ森章太郎、つのだじろう、赤塚不二夫とスタジオ・ゼロを設立。テレビアニメーション制作を中心に活動。現在、東京アニメーター学院の特別講師も務めるなど、新人育成の場でも活躍している。

真賀里文子（人形アニメーション作家）

持永只仁の製作所に足を踏み入れてから、岡本忠成初期作品「コンタック」「NTTドコモタケ」などのCMアニメーションを手掛ける。並行して「ウルトラQ」「帝都物語」の特撮、「くるみ割り人形」「くまの子ウーフ」など、多くの人形アニメーションを手掛けてきた。

持永伯子（持永只仁の長女）

1942年持永只仁の長女として誕生。1945年東京空襲で自宅が全焼。父母、祖母と共に長春に渡る。激動の中国でアニメーションを制作し、伝え続ける父の姿を見て育つ。

中華人民共和国

天津

上海

佐賀

日本

イベントスケジュール（会場：エスプラッツ 入場無料）

● 2月5日（金）・・・天津電影の世界

- 10時～12時 プレ上映「白蛇伝」
- 13時～14時 オープニングセレモニー、最新天津電影アニメーション上映
- 14時～15時 講演「中国アニメーションの現状」毛東継
- 15時～16時 講演「天津電影とアニメーション」朱鵬璋
- 16時～17時30分 シンポジウム「天津電影動画の新たな動き」（パネラー：毛東継 朱鵬璋 司会：西村雄一郎）

● 2月6日（土）・・・持永只仁の世界

- 10時～12時 持永只仁のアニメーション上映「アリちゃん」「桃太郎の海鷲」など
- 13時～14時 講演「日本アニメーションの歴史」鈴木伸一
- 14時～15時 記録映画上映「新中国映画の揺籃」40分
- 15時～16時 講演「激動の中国でアニメーションを伝えた父について」持永伯子
- 16時～17時30分 シンポジウム「持永只仁の世界」（パネラー：段孝萱 鈴木伸一 有吉未充 真賀里文子 司会：角和博）
- 17時35分～18時30分 持永只仁のアニメーション上映「ルドルフ物語」など

● 2月7日（日）・・・日本人形アニメーションの世界

- 10時～12時 持永只仁の作品上映「ちびくろさんぼのとらたいじ」「ぶんぶくちやがま」など
- 13時～14時 講演「上海美術電影製作所と持永只仁」段孝萱
- 14時～15時 真賀里文子のアニメーション上映
- 15時～16時 講演「持永只仁が日本アニメーション界に残した大きな道」真賀里文子
- 16時～16時30分 佐賀のアニメーション作家 一ノ瀬輝陽と東義真の作品上映
- 16時30分～18時 シンポジウム「日本アニメーションの現状と将来」（パネラー：真賀里文子 有吉未充 一ノ瀬輝陽 司会：川下勝也）

※期間中は会場横の研修室にて持永只仁が作品で使用した人形を展示します。
 ※2/7午後には講演や上映と平行してクレイ・アニメーションのワークショップを行います。参加無料。
 ※上映はフィルムではなく、プロジェクトorで行われます。
 ※予定が変更される事もあります。ご了承ください。

上映作品例



「白蛇伝」（1958年セル79分）

中国の説話を題材にした、日本最初のカラー長編アニメ映画。東映動画制作。声の出演：森繁久弥他。日本のアニメーション映画史上に残る名作。



天津電影アニメーション（2009年CG）

「親子」「林の宝物」「蝶々と野菜仙人」「王家の四宝」「ラウカに毎日の質問」「四大家族」「小さいカンフーチーム」など10本を紹介。



「桃太郎の海鷲」（1943年セル37分）

日本初の国産長編アニメーション。戦意高揚目的に制作された映画ではあるものの、随所に平和への願いが暗示されている。



「ルドルフ物語-赤い鼻のトナカイ」

（1964年人形55分）

生まれつき赤く光る鼻をもつルドルフは、みんなの笑いのもの…40年以上世界で愛され続ける作品。



「ちびくろさんぼのとらたいじ」

（1956年人形18分）

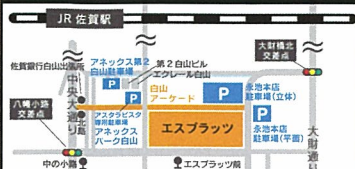
第一回バンクーバー国際映画祭児童映画部門最優秀賞受賞。アメリカ人の心に一番響いた歴史的な作品



「アリちゃん」（1941年セル11分）

アリの子どもの改心を暖かく描いた秀作。四段多層式（マルチプレーン）の撮影台を使用して作られた最初の作品。

会場案内



◎会場◎佐賀市街なかふれあいプラザ
 「エスプラッツ」
 〒840-0826佐賀市白山2丁目7-1
 TEL0952-40-7593 FAX0952-27-5240

◎駐車場◎永池駐車場（有料、エスプラッツでお買い物すると1時間無料）

◎公共交通機関をご利用のお客様◎
 佐賀駅から【徒歩約20分】、【タクシー約5分】
 佐賀駅バスセンターから【各路線あり/エスプラッツ前、呉服元町、中の小路バス停にて下車】

◎車でお越しのお客様◎
 八幡小路交差点（中央大通り）を東へお進みください。
 大財橋北交差点（大財通り）を西へお進み下さい。